



漕代小学校だより



松阪市立漕代小学校 令和5年12月4日(月) N0.21

ホームページ <http://www.koishirosho.com>

E-mail: koishiro2es@matsusaka.ed.jp

校長 橋本恵美子

東部中校区公開研究会 (松阪市教育委員会指定「未来を切り拓く力」育成モデル校区事業)

本校とてい水小学校は、合同で3年生が「探究学習」の発表をしました。テーマは地域の魅力です。

子どもたちは、あじへいやオーシャン、シフォンピヨリなどの地域の店を調べるうちに、「市街化調整区域」というところがあり、あまり自由に店や家を建てることができないことを知ります。「なぜだろう」と疑問に感じ、営農組合の西村さんに、「市街化調整区域」について尋ねに行きました。「市街化調整区域」は東部中学校区全体にあることを知って驚いたり、農業を大切にしている地域であることを知って漕代を誇りに思ったりする気持ちが湧いたようです。



また同時に、「市街化調整区域」と漕代小学校の児童の減少化は関係があるのではないかと、疑問も湧いたようです。そこで今度は、漕代市民センターの小林センター長さんに住民の数の推移などを尋ねに行きました。ほかにもいろいろ調べていくうちに、漕代の人たちが守ってきた自然(櫛田川や祓川など)や広い広い農耕地(田畑、大豆畑など)、おいしい農作物に気づき、漕代をもっと好きになったという発表でした。今後の探究学習では、大好きな漕代のことを、学校の仲間や地域の人だけでなく、外の地域の人たちにも伝える活動に展開していくのではないのでしょうか。楽しみです。ご参加くださった、地域の来賓の方々、ありがとうございました。

東部中校区 探究学習の小中交流会

11月28日(火)に東部中学校で6年生と中学1年生の交流発表会がありました。それぞれの学校で行っている探究学習の交流会でした。

本校の6年生は、「伊勢街道『櫛田の渡し』」の発表でした。早馬瀬町の三浦雅彦さんから聴き取りしたことをもとに、伊勢街道が「参宮街道」と呼ばれる理由や早馬瀬地域の宿場町としてにぎわった様子などを、資料を見せながら、自分の考えも取り入れ、上手にまとめていました。

また、今のように橋のない時代、櫛田川を越えるにはどうしていたのかという疑問を調べるうちに、てい水小学校側にある、「櫛田の渡跡」を見つけ、櫛田川に渡し場があったことを知り、渡し船体験をしたいと思うようになったこと、実際に地域の方の協力を得て和船で渡った時の感動を、表現豊かに伝えていました。

他校児童も興味深く聞いていて、発表後には「昔、船で渡るにはどのくらいのお金が必要でしたか。」という質問に、「金額ははっきり調べていませんが、高額だったのではないかなあと思います。」と意見交流をしていました。帰り際、昨年度の本校卒業生数人がやってきて、「校長先生～、今年の6年生、すっごくうらやましい～。私たちのしてないこといっぱいしとるんやもん。」と、うれしい訴えがありました。

このように、どの学年も地域の方のご協力を得て、地域探究学習が進んでいます。ありがとうございます。

